

資料編 1

専門学校に対するアンケート調査結果詳細

1. 専門学校に対する「正規課程との単位互換の可能性についての実態調査－アンケート」

デザイン系専門学校22校に対して、正規課程との単位互換の可能性や、学び直し講座の開設状況などについて、アンケートを実施した。

(1) アンケート調査方法

アンケートの調査方法は、郵送による留置き法である。聴取期間は平成25年9月11日から同年10月5日である。アンケート回収率は、22校のうち9校からの回答であるため、40.9%となる。下表にアンケートの質問項目を示す。

アンケート調査質問シート

質問1. 貴校では、学び直し講座を開設していますか。ある場合は、その教科名をお答えください。また、ない場合は、今後学び直し講座を開設する可能性についてお答えください。

() 学び直し講座を開設している。

教科名称：()

教科名称：()

() 学び直し講座は開設していないが、今後開設する予定である。

開設予定の教科名称：()

() 学び直し講座を開設する予定はない。

質問2. 貴校では、e-learning による講座開設を行っていますか。行っている場合にはその教科名称をお答えください。

() e-learning をすでに活用している。

() you tube を活用した授業を行っている。

質問3. 機構では、既存検定との単位互換制度を実施していますか。実施している場合には、検定の内容と、単位互換時の評価の仕方についてお答えください。

() 既存検定と単位互換制度を実施している。

検定種類	検定取得級	貴校に於ける評価の仕方

() 既存検定との単位互換制度を実施していない。

質問4. 既存検定と単位互換制度を実施する場合、利点や危惧される問題点などがありますか。どのようなことでも結構ですので、お答えください。

質問5. 貴校で、取得できる検定の種類と、取得を推奨している検定がありましたら、お教えください。

①取得可能な検定の種類をお教えください。

②推奨している検定の種類をお教えください。

質問6. 貴校における学生の検定に対する関心度をお教えください。

質問7. 貴校では、他の専門学校や大学間で単位互換制度を取り交わしていますか。取り交わしている場合には、科目名称をお答えください。

() 他の専門学校との間で、単位互換制度を取り交わしている。

専門学校名称	科目名称

() 大学との間で、単位互換制度を取り交わしている。

大学名称	科目名称

() 単位互換制度は、取り交わしていない。

質問 8 . 他学校との単位互換制度について、どのようなことでも結構ですので、御意見をお聞かせください。

質問 9 . 貴校で、カリキュラムの改正（編成）は、どのようなタイミングで実施されていますか。編成の規模が関係してくると思いますので、できるだけ詳しくお教えてください。

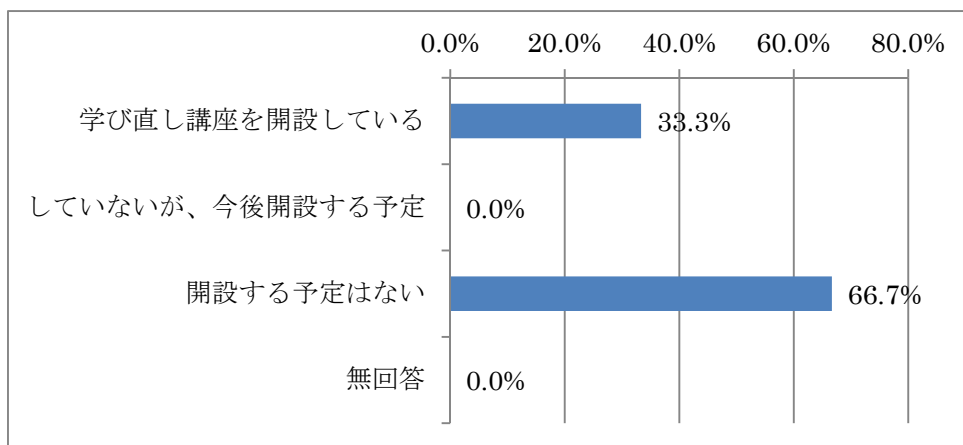
質問 10 . 本、人材養成カリキュラム開発についての意見について、お伺いします。

質問 11 . E-ラーニングの実施について、ご意見等がありましたらお聞かせください。

ご協力どうもありがとうございました。

(2)結果

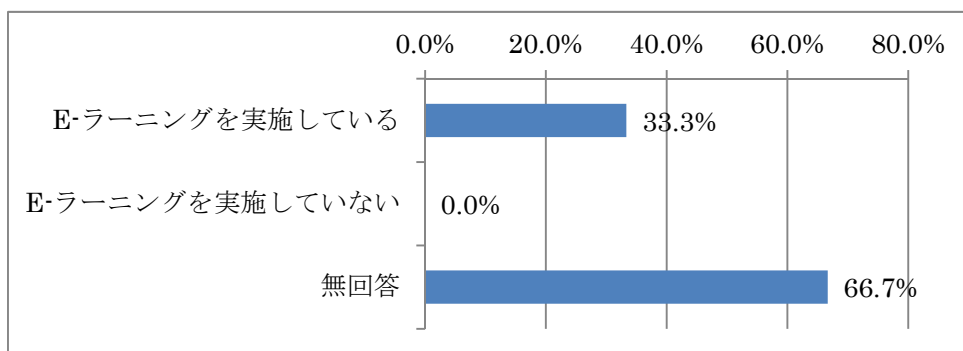
①質問1では、社会人や卒業生に対する学び直し講座を開設状況を聴取した。なお、開設をしている場合には、「教科名」を、していない場合には「今後学びなおし講座を開設する可能性」についてたずねた結果、以下の回答を得た。



- ・学び直し講座の開設は3校にとどまる。
- ・残りの6校は、今後も開設の予定がないとの回答。
- ・やや消極的な回答傾向となっている。
- ・学び直し講座を実施している3校は、社会人のための「artgym クリエイティブスクール」、「Cビルドコース・編入学制度・聴講生制度」、「キャリア支援講座」。

②質問2では、Eラーニングによる講座開設の状況についての質問を行なった。なお、行なっている場合にはその教科名称を尋ねた。

その結果、Eラーニングを実施しているのは、3校にとどまっているが、そのうちの1校は、「Youtube を活用した授業である」との回答である。

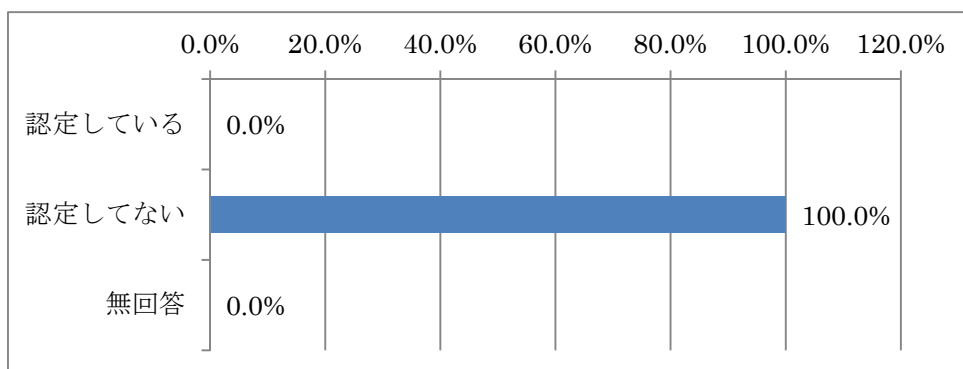


開設している3校の講座名称

- ・「イラストレータ・フォトショップ演習」
- ・「ニュース検定対策」「基本情報処理」
- ・Youtube の活用。

演習系科目に Eラーニングを活用していることは興味深いですが、イラストレータやフォトショップの操作方法については、Eラーニングでも対応可能であることが示唆された。

③質問3では、既存検定取得を単位として認定しているかをたずねた。なお、活用している場合には、既存検定の名称と認定科目と単位認定した際の成績評価について質問を行なった。



・既存検定取得を単位認定として認めると回答した学校は1校上げられていたが、その内容をみると、検定取得で単位が得られるというわけではなく、「成績に反映する」ということであったため、カウントとしては、「認定していない」の回答に含めた。
なお、成績評価の際の参考にする専門学校はほかにも1校存在しているため、合計で2校となる。

④質問4では、既存検定を単位認定する場合の利点や危惧される問題点等を自由回答で求めた。

各校の意見は以下のとおりであるが、既存検定の質を疑問視する回答もあるように、単位認定に匹敵する検定の精査を行なうことが必要であることが示唆される。また、既存検定を活用することで、在学生の目的意識が明確になるのでよいという肯定的な意見も出されている。

さらに、既存検定の試験実施時期が、専門学校の成績評価時期と合わないために、成績として単位認定することが難しいという声もあった。

<自由意見による回答>

- ・**検定によりレベルが様々**。単位認定するだけ理解をしているとは限らない。
- ・検定は成績評価の際の参考。
- ・検定資格が企業評価として広く定着する必要がある。
- ・学習内容がテキスト対応となり、暗記や解法に偏る恐れがある。本校は実践力の養成に時間を割いている。
- ・高校など自校以外で学んだことを二重に単位認定してしまう
- ・利点:学びに対する積極性を高めるためには良い。 問題点:分野として進路・就職への重要度が低く、企業の理解が必要。
- ・なし
- ・検定資格取得を目標におこなう場合は明確な目標設定ができており、取り組む姿勢が向上される事が多い。**検定合格を単位認定に結びつける場合は、複数回おこなわれる検定試験日と可否発表のタイミングを考慮しなくてはならない。**学科毎に取得推奨する検定試験が異なるため、修得単位数の学年平均とバランスが必要となる。検定は任意で受けるものもあるが、検定料が高いことなどで受験しない学生がいる。
- ・単位認定をする事により、学ぶ側の目的意識が明確になり自発的な学習意欲がわくのではないかと思われる。

⑤質問5では、それぞれの専門学校で取得できる検定の種類や、取得を推奨している検定は何かを求めた。

1)取得可能な検定の種類

アドビソフト系の検定が3種類、Web・CG関係が3種類、デザイン系検定のインテリアコーディネータや色彩検定、ビジネス系の検定や国家資格である建築士、建築CAD等が上げられた。

検定名称	件数(校)
色彩検定・色彩士検定	3
Web クリエーター	1
CG クリエーター検定	2
Web デザイナー検定	1
マルチメディア検定	1
イラストレータークリエイター	1
フォトショップクリエイター	1
1 級建築士	1
2 級建築士	1
建築 CAD	1
インテリアコーディネータ	1
word・Excell	1
ビジネス能力検定	1

2)推奨している検定試験

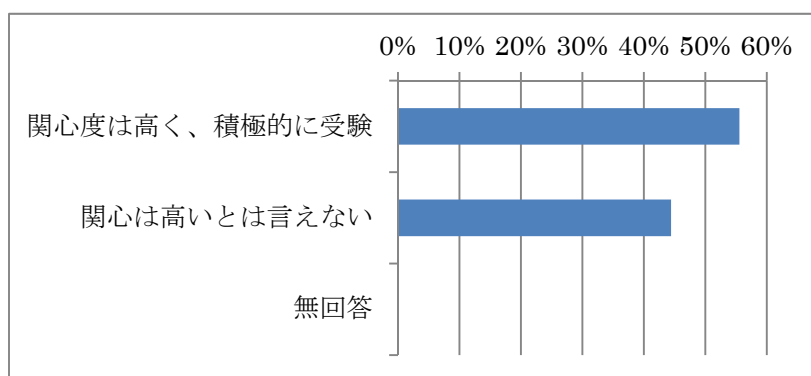
取得可能な検定種類と近似するが、DTP 検定や漢字検定、販促士、リビングスタイリスト検定などが加えられている。

資格を取得することで、単位を認定するという事は行っていないものの、資格を取得すること自体については消極的とは言えない結果であるといえる。

検定名称	件数(校)
色彩検定・色彩士検定	3
Web クリエーター	1
CG クリエーター検定	1
Web デザイナー検定	1
CAD 検定	1
イラストレータークリエイター	1
フォトショップクリエイター	1
アドビ検定	1
DTP 検定	2
販促士	1
インテリアコーディネータ	1
リビングスタイリスト	1
word・Excell	1
MOUS	1
漢字検定	1

⑥質問6では、在学生の検定に対する関心度を求めた。なお、関心が低い場合にはその理由についても求めた。

その結果、関心が高いと回答した割合は約55%であり、半数を上回る結果となった。



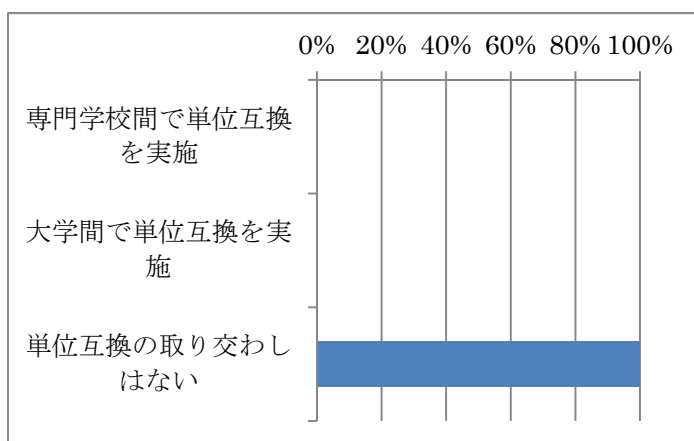
検定に対して、「関心が高いとはいえない」と回答した理由として、以下の3つの意見が上げられた。

<理由>

- ・検定に関する世間の認知度が低い。
- ・検定の前に実力が大切という教育方針だから。
- ・進路・就職への重要度が低い。

⑦質問7では、専門学校間や大学間で単位互換制度を取り交わしているかどうかを求めた。なお、取り交わしている場合には、その科目名称を問うた。

その結果、すべての専門学校で、単位互換の取り交わしはしていないという結果となった。



⑧質問8では、単位互換制度について自由に意見を求めた。

回答は3校のみからという少ない結果となったが、学び直し者やある特定の科目のみを受講し、履修照明等が必要になる場合には、以前に取得した単位が互換されることに否定的な意見はない。

さらに、遠隔地にある専門学校からの回答では、遠隔地教育の場において、他校との接点や交流や教育格差の是正につながるという、肯定的な意見が得られている。

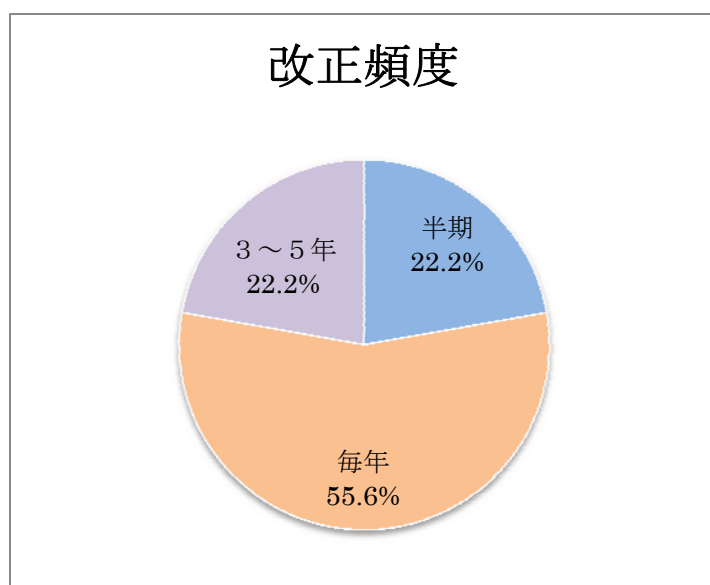
得られた意見は次のとおりである。

- ・プロダクトマネージャークラスの人材育成には必要となる制度である
- ・単位互換制度は高等教育機関への全入時代を迎えた日本にとって、学びの途中で方向転換をしたいものや学び直したいものにとって大切な制度であると思う。
- ・本校は、地域的条件で他校との接点が持ちづらいので、具体的な事はいえないが IT を駆使した遠隔地にも対応できるシステムがあれば、単位互換を積極的に考えたいと思う！

⑨質問9では、自校におけるカリキュラム改正の実施頻度とその改正理由について求めた。

1)改正頻度

改正(見直しを含む)頻度は毎年実施する専門学校が半数を占める。中には、3から5年に1回程度との回答も見られ、学校により差があることが分かる。



2)カリキュラム改正理由

<半期ごとに実施している学校>

- ・二期制なので
- ・講師スケジュールや履修者数のバランス調整、前期の学生の理解度等の状況を踏まえて後期カリキュラムの調整をする

<毎年実施している学校>

- ・卒業生の状況や企業の意見を参考にするため
- ・分野、選考により大きく異なる

- ・産業構造や人材ニーズの変化に対応するため
- ・すべての教科ではないが、毎年見直しはしている。
- ・時代や現場のニーズに対応する。

<3年から5年で実施>

- ・全学科の科目が一度終了し、その成果を鑑みて改正する。
- ・世間のニーズに合わせるため

⑩質問10では、中核人材養成カリキュラムの開発についての意見を聴取した。その結果、6項からの回答を得た。

変化に対応できる人材養成や、産業界のニーズとマッチしたカリキュラム開発、Eラーニングでのカリキュラム開発には期待する声が多い一方で、就業して5年程度の既職者と未就学者で同じカリキュラムは対応できないのではないかという声が上がられている。

<自由意見>

- ・専門学校にはあまり関係がないと思う
- ・ハード(技術)とソフト(発想)の2つの側面でカリキュラムを組み立てる必要がある
- ・知識基盤社会と言われ答えのない世界が社会であり、プロジェクトマネジメントの運用は産業界ではスタンダードとなっており、**産業界のニーズとマッチしたカリキュラム開発は大変有意義**であると考える。
- ・デザインの業界において、時代とともに仕事の内容や係わり方がかなり変化している。従来通りの教育方法から**変化に対応できる人材養成が可能になるカリキュラムになることを期待**する。
- ・本事業が目指す人材は、各部門における業務遂行の知識や技能について熟知し、各部署の取り組みの方向性を調整する役割を果たすマネジャー育成であり、製品製造関連企業就業5〜6年経つ中堅社員が対象となっている。また就業を希望する者に対しては、段階的なカリキュラム開発が目的となっているが、今年度事業実施計画でどこまでのカリキュラム開発を想定されているか詳細はわかりませんが、**中堅社員と未就業者とでは知識や技能等かなりの開きがあり、同じカリキュラムでは対応出来ない懸念がある**と考えます。
- ・人材養成のカリキュラムについては、関心が高いが現在の流れでいうと**e-learningでのカリキュラム開発に期待**している

⑪質問11では、Eラーニングの実施について自由意見を求めた。その結果7項から回答が得られたが、デザイン分野においてEラーニングは適していないのではないかという否定的な件がある一方で、実際に活用を検討していると回答する学校や、Eラーニングならではの生かしどころをつかんだ活用がよいという意見も得られている。

E-ラーニングの採用にいたっては、利点と欠点をよく理解した上で、その強みを生かせるような活用方法を検討する必要が改めて示唆された。

具体的な自由意見を以下に示す。

<自由意見>

- ・デザイン分野には不必要。対面式授業により、コミュニケーションをとることが必要
- ・国家資格認定校であり法改正がなければE-ラーニングは実施できない。
- ・ネットによって「全てを教える」という考え方を脱してみる視点がある。ネットに触れるターゲットの意識の分析が重要。
- ・本人の意欲により実施内容に差が生じる。
- ・本校では、今後単位制に加えて通信制(e-ラーニングを含む)についても検討することになっている。子どもが減少している中で**既卒者へのアプローチが大変重要**であり、**学び直しの制度が今後の日本の教育に求められている**ことも痛感している。
- ・本校は服飾文化教養分野で、実技やデザインセンス等の習得や向上を目指すカリキュラム構成が軸となっています。現在のところ、**eラーニング教材・学習材の内容は、実技を必要とするような科目カリキュラムに向かない**と考えています。
- ・今後において非常に高い期待をしているが教育システムの開発等に、**e-learning** ならではの**生かしどころを確実に**つかみ、より強みを付加した広がりあるものにしていただきたい。